

SFS-AY

社会的機能尺度 思春期・青年期版

Social Functioning Scale

Adolescence and Young Adult Version

社会的機能尺度について

社会的機能尺度は個人の社会参加、生活機能レベルを簡便に計測するために作成された尺度です。対象は社会的機能レベルが低下している者に実施します。人は身体障害(疾患)、精神障害(疾患)をはじめさまざまなことが原因となって、社会的機能レベルが低下することがあります。

本尺度が算出するのは、SOFAS(Social and Occupational Functioning Assessment Scale)スコアと呼ばれるものです。SOFAS は個人の社会的機能レベル・社会参加の度合いを1～100 までの数値で表現した尺度で、100 が最も機能が高く、1 が最も機能が低下している状態と定義されます。本尺度では21～80 の間の評価が可能です。

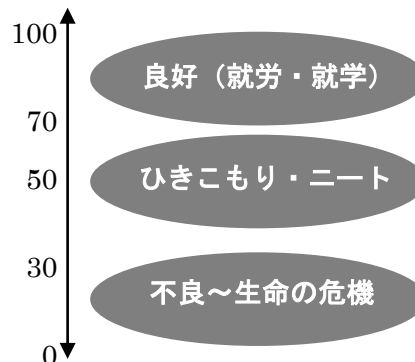
SOFAS の目安としては、学校に通ったり、会社に勤めている人の多くは80 以上のスコアとなり、ひきこもりや連続欠席の不登校は50 未満のスコアだと評価されません。また、20 以下のスコアは生命の危険があると判断されます。

評価するのは機能レベルであり、身体疾患や精神疾患の評価を行うものではありません。精神障害・神経障害・神経障害といった障害・疾患単位ではなく、横断的に評価を行うことができます。本人の心理的な変化も測定しません。例えば、働く意欲が湧いたということがあっても、本人の客観的な「行動」に変化が無ければ機能レベルは変化しません。採点者は心理的要因を除いて評価してください。

対象年齢は6 歳から40 歳までの範囲です。

この尺度の元になっているのはDSM-IV で使用されているSOFAS¹を標準化した評価尺度PSP(Personal and Social Performance Scale)²である。本邦においては、PSP の半構造化面接版であるSIG-PSP³が存在している。PSP およびSIG-PSP との大きな差異は項目が定型の質問文となっており、臨床評価技術必要としない形へと変化させている点である。また、PSP およびSIG-PSP は主な対象を統合失調症であるとしているのに対して、SFS-AY は一般人口を主な対象としている。SFS-AY による測定を想定している精神障害はうつ病、不安障害といった非精神病性障害である。

SOFAS のイメージ図



¹ 高橋三郎・大野裕・染矢俊幸訳, 1996『DSM - IV 精神疾患の診断・統計マニュアル』医学書院.

² Morosini PL, Magliano L, Brambilla L, Ugolini S, Pioli R. Development, reliability and acceptability of a new version of the DSM-IV Social and Occupational Functioning Assessment Scale (SOFAS) to assess routine social functioning. Acta Psychiatr Scand. 2000; 101(4):323-329.

³ 稲田俊也, 山本暢朋, 相澤玲, 稲垣中『日本語版 PSP (個人的・社会的機能遂行度尺度) 評価トレーニングシート ver.1.0』

書き込み式 SFS-AY の評価手順

1. 評価者・評価日・評価対象者氏名・年齢・性別を書き込む
2. 下記4領域の機能レベルについて、最も近い質問文のアルファベットをマークする。
 - 領域1. 社会的に有用な活動
 - 領域2. 個人的・社会的関係
 - 領域3. セルフケア
 - 領域4. 不穏な・攻撃的な行動
3. 質問の回答が「B」であった場合、重症度・頻度を評価する。
 - 質問文よりも軽い場合・・・「+」
 - おおむね質問文通り・・・「0」
 - 質問文より重い、下位の質問文に満たない場合・・・「-」重症度評価をする情報が不足している場合には「0」として評価する。
4. 採点を行う。
 - 10点幅の採点はPSPと同様の手続きを踏む。
 - 10点幅が決定した後、各10点幅の1点幅について計算を行う。

社会的機能尺度 (SFS-AY)

評価欄

評価者 _____ 評価日 _____

対象者

氏名 _____ 年齢 _____ 歳 男 / 女

評価

領域 1 _____ 領域 2 _____

領域 3 _____ 領域 4 _____

得点 _____

社会的機能尺度 (SFS-AY)質問文

領域 1. 社会的活動

対象者の現在の状況において求められる社会的役割、最も比重が大きい活動を下記の場合分けから選択。

例：大学生でアルバイトを週数日している→大学生

主婦でパートに出ている→主婦・主夫

- ・対象者に中学校・高校・高専・専門学校の学籍がある場合 →1-1
- ・対象者に大学・短大の学籍がある場合 →1-2
- ・適応指導教室・フリースクール・通信制・サポート校に通っている場合 →1-3
- ・対象者が就労者、もしくは職籍がある場合 →1-4
対象者が就労者であるが、リワーク、中間労働・週数日のアルバイトも含む
- ・主婦・主夫の場合(家事のほとんどを行っているもの) →1-5
- ・対象者は社会的な役割がある年齢であるが、それを遂行していない場合→1-6
(ひきこもり、ニート、名ばかり家事手伝い、支援機関のみ通所・宿泊、病院のみ通院など)
- ・対象者に上記以外の役割がある場合 →1-7

1-1 小学校・中学校・高校・高専・専門学校の学籍がある場合 (人間関係は評価しない)

1-1-1	学校を休むなど表だった不応はないが、就学状況に問題がある。 【欠席での基準：1割未満】	B
1-1-2	学校の欠席があるが、進級・卒業には問題がない見込みである。 【欠席での基準：1割以上～1/3未満】	C
1-1-3	学校の欠席があり、進級・卒業が困難になるペース、または見込みである。 【欠席での基準：欠席が1/3割以上】	D
1-1-4	学校を連続欠席しており、学校に通うことが困難である。	E

学校・家族・友人・専門家の助けなどによって通学が可能になっている場合には、1カウント低く評価する。
援助がありAの場合にはB+と判定する。

1-2 大学・短大の学籍がある場合 (人間関係は評価しない)

1-2-1	学校を休むなど表だった不応はないが、就学状況に問題がある。	B
1-2-2	学校の必修単位を落とすなどの問題はあるが、進級・卒業ができないほどではない。 (経済的理由や学業的理由は除く)	C
1-2-3	通学の必要があるにもかかわらず、学校に継続して行かず、進級・卒業ができない(もしくは見込み)である。(経済的理由や学業的理由は除く)	D
1-2-4	学校に通うことが困難であり、進級・卒業ができない(もしくは見込み)である。	E

休学中に他の活動を行っている場合には、主な活動から適切な選択肢を選び直し、1カウント低く評価。Aの場合にはB+と判定。

援助がありAの場合にはB+と判定する(以下同)

学校・家族・友人・専門家の助けなどによって通学が可能になっている場合には、1カウント低く評価する。

1-3 適応指導教室・フリースクール・通信制・サポート校に通っている場合(人間関係は評価しない)		
1-3-1	学校や教室におおむね問題なく通っている。	B
1-3-2	学校や教室に通っているが、欠席があったり課題が遅れるなどの問題がある。 【基準：欠席・求められる課題のうち、できない割合が1割未満】	C
1-3-3	学校や教室に通っているが、欠席があったり課題が遅れるなどの問題が明らかである。 【基準：欠席・求められる課題のうち、できない割合が1/3未満】	D
1-3-5	学校・教室・スクーリングに通うことや課題の提出がまったくできない。 【基準：欠席・求められる課題のうち1/2もできていない】	E

家族や専門家によるサポートによって役割遂行ができている場合は1カウント低く評価する。

援助がありBの場合にはCと判定する。B判定の場合の重症度は、BとB-のみの判定。

通信制・サポート校は3～4年で高校卒業ができるペースを「問題ない」という目安にする。

1-4 就労者、もしくは職籍がある場合		
1-4-1	表だった不応はないが、就労に関する問題を抱えている。	B
1-4-2	少なからず就労の問題があり、表面化している。 例：欠勤が断続的にある、仕事が十分にできない。	C
1-4-3	専門家などのサポートがあれば、不十分ながらも職業生活を送ることができる。	D
1-4-4	職場に行くことができない、働けないなどの職業生活上の問題が起きている。全くできない訳ではないが、ほとんどできていない。	D
1-4-5	職場に行くことができない、もしくは、働くことができない、など必要なことが全くできておらず、深刻な職業生活上の問題がある。	E

正規雇用・常勤雇用・フルタイムに近い形態での雇用・労働はこのカウント通り。

作業所・リワーク・中間労働・単発アルバイト・週数日のアルバイトは1カウント低く評価する。

1-5 主婦・主夫の場合(家事のほとんどを専門的に行っているもの)		
1-5-1	ア. 家事全般に問題がなく、他の家族も困っていない。 イ. 仕事・学校・学校の役員・趣味の集まりなど家族以外の社会的関係がある。	A
1-5-2	ア. 家事全般に問題があるが、他の家族が困るほどではない。 イ. 仕事・学校・学校の役員・趣味の集まりなど家族以外の社会的関係がある。	B
1-5-3	家事全般は部分的にできているものの、家事の停滞等で他の家族は困っている。	C
1-5-4	家事全般がほとんどできておらず家事が停滞していて、他の家族はそのため困っている。	D
1-5-5	一人では、家事全般がほとんどできないが、家族などのサポートによって、家族が不十分ながらある程度はできている。	D
1-5-6	家事全般が全く行えていない。家族や専門家などのサポートなどがあっても全くできていない。	E

1-6 対象者は社会的な役割がある年齢であるが、社会参加に問題がある場合		
1-6-1	何らかの社会的な活動・社会参加を行っており、求められる役割が果たしている。 例：就労・就学ではなく趣味等のグループの仕事等（独力で行っていること）	B
1-6-2	何らかの社会的な活動・社会参加をしており、求められる役割が不十分ながら果たすことができている。	C
1-6-3	社会に復帰するために、支援機関・医療機関等に必要だけ通っている。	C
1-6-3	何らかの社会的な活動・社会参加があるが、求められる役割がほとんどできていない。	D
1-6-4	支援機関・医療機関等に通っているが、頻度や時間数が不十分である。	D
1-6-5	社会的な活動、社会参加、求められる役割を果たすことができていない。	E

家族や専門家によるサポート・促しによって役割遂行ができている場合は1カウント低く評価する。

1-7 対象者に上記以外の役割がある場合 本人に求められている役割を記載（ _____ ）		
1-7-1	求められる社会的役割に表だった不応答はないが、問題を抱えている。	B
1-7-2	求められる社会的役割に少なからず問題があり、それが表面化している。	C
1-7-3	求められる社会的役割が、全くできない訳ではないが、ほとんど果たせていない。	D
1-7-4	求められる社会的役割が全くできない。	E

家族や専門家によるサポートによって役割遂行ができている場合は1カウント低く評価する。

領域1の評価	Bの重症度 - / 0 / +
最も大きい点数を記載。どの項目にも該当しない場合は A	

領域 2. コミュニケーション

通常は 2 A で評価。非対面コミュニケーションが中心になっている場合のみ 2 B で評価。

非対面コミュニケーション

例：インターネット、電話、テレビ電話、SNS、メール、チャット、LINE、ネットゲームなど。

2 A. 対面コミュニケーション (非対面関係が多い場合には領域 2 B で評価)

2A-1	学校の人との間関係・職場の人間関係に <u>表に出てない</u> トラブルがある。 例：周囲が気づかないいじめ、喧嘩、パワハラ、セクハラ等	B
2A-2	親しい友人がいない。	B
2A-3	ア. 学校・職場の人と仕事以外のつながりを持っていない。 例：終業後にご飯を食べに行ったり、遊びに行くといったことをしない。 イ. 親しい友人がいない。	C
2A-4	ア. 学校・職場において人間関係のトラブルを <u>常に</u> 抱えている。 イ. そのトラブルは周囲も気づいている。	C
2A-5	家族以外の他者とコミュニケーションを <u>月に数回程</u> とっている。 (買い物などで店員とのやりとりをする会話はコミュニケーションに含まない)	D
2A-6	家族以外の他者とコミュニケーションをとっていない。(同上)	E
最も大きい点数を記載。どの項目にも該当しない場合は A		B の重症度 - / 0 / +

家族とは同居家族、2 親等の家族(父・母・配偶者・子・兄弟姉妹等)。内縁関係も含める。

2 B. 個人的・社会的関係(非対面・ウェブ等の対人関係が中心の場合)

2B-1	ア. 学校・職場・友人などの家族以外の他者との <u>対面</u> コミュニケーションが <u>週に数回程度以上</u> はある。 ア. 家族以外の他者との <u>非対面</u> コミュニケーションを <u>頻繁に長時間</u> ある。	B
2B-2	ア. 学校・職場・友人などの家族以外の他者とコミュニケーションを <u>月に数回程</u> とっている。 イ. 非対面コミュニケーションに限定される。	C
2B-3	ア. 家族以外の他者とコミュニケーションを <u>とらない</u> 。 イ. 非対面コミュニケーションに限定される。	D
最も大きい点数を記載。どの項目にも該当しない場合は A		B の重症度 - / 0 / +

アとイの条件を同時に満たす

家族とは同居家族、2 親等の家族(父・母・配偶者・子・兄弟姉妹等)。内縁関係も含める。

領域 3. セルフケア

3-1	身だしなみが社会的・文化的慣習に適切ではない時がある。 例：洗濯していない服を着ている時があるなど。	B
3-2	歯、散髪、ヒゲ、爪などのケアをしていない。頻度は少なく、軽度のもの。	B
3-3	身だしなみが社会的・文化的慣習に適切ではない。頻度は高く、重度のもの。 例：洗濯していない服を着続け周囲の者が悪臭を常を感じる等	C
3-4	歯、散髪、ヒゲ、爪などのケアをしていない。頻度は高く、重度のもの。	C
3-5	常に、入浴・シャワーなどで身体を清潔に保てていない。	D
3-6	食事の量が著しく多いか少ないため深刻な健康上の問題を抱えている。	D
3-7	季節に合わせた服を着ることができない。(冬に夏の服を着るなど)	D
3-8	排尿、排便、生理の処理が適切に行われ、清潔に保たれていない。	E
3-9	介助なしに身体機能維持のために飲食ができない。	E
最も大きい点数を記載。どの項目にも該当しない場合は A		B の重症度 - / 0 / +

領域 4. 攻撃的な行動

「一方的」とは周りの攻撃、言葉や挑発を受けての発言・行動ではないという意味

例：「殴られたので、防衛のために殴り返した」は暴力性としてカウントしない

4-1	怒りにまかせて、物にあたりたりすることがある。(1ヶ月に数回程度)	B
4-2	ところかまわず不平を述べたり、集団や人に対して不和を常に生み出す言動がしばしばある。ただし、敵対的とまではいかない。	B
4-3	怒りにまかせて、物にあたりたりすることがある。(1週間に数回程度)	C
4-4	集団や人に対して不和を常に生み出す言動を取る。敵対的関係、関係の断絶を生み出すことがしばしばある。	C
4-5	一方的に暴言や陵辱・攻撃的な言動を行う。(1ヶ月に数回程度)	D
4-6	一方的に怒りにまかせて人に物を投げつける、器物破損をする。(1ヶ月に数回程度)	D
4-7	一方的な対人暴力・重大な器物破損がある。(ただし重傷を負わせる意図や可能性のないもの)	E
4-8	ア. 一方的に暴言や陵辱・攻撃的な言動を行う。 イ. 内容は言動を受けた者にとって非常に深刻であり、内容が脅威となるもの。 ウ. 頻度は1週間に数回程度。	E
4-9	一方的な対人暴力・器物破損がある。(重傷を負う可能性のあるもの)	F
最も大きい点数を記載。どの項目にも該当しない場合は A 頻度が今後6ヶ月以降、同様のことが再び起きないと判断できる場合には1段階低く採点する。		B の重症度 - / 0 / +

A～E が重複する場合は重い方を選ぶ

社会的機能尺度 (SFS-AY)10 点幅採点

10 点幅採点

SOFAS 得点	判断基準 (I、IIは「または」という意味)
100～81	4つの領域全て「A」。
80～71	1～3領域に「B」が1つ以上ある。
70～61	I. 領域1～4に「C」が1つ以上ある。(領域4はB以上) II. 領域4に「B」。
60～51	I. 領域1～3に「D」が1つある。(領域4はC以上) II. 領域4に「C」がある。
50～41	I. 領域1～3に「D」が2つ以上ある。(領域4はC以上) II. 領域1～3に「E」が1つある。(領域4はC以上)
40～31	I. 領域1～3に「E」が1つあり、領域1～3に「D」が1つ以上ある。(領域4はC以上) II. 領域4に「D」がある。
30～21	I. 領域1～3に「E」が2つある。(領域4はD以上)。「E」が3つの時はもう一段階下。 II. 領域4に「E」がある。(領域4はD以上)
20～11	I. 領域1～3項目すべてが「E」である。(領域4はE以上) II. D項目に「F」がある。

複数の10点幅に該当する場合は重い方を選択する。

同じ10点幅でIとIIの両方に当てはまる場合はIとIIのどちらかで評定してよい。

評価

	領域1	領域2	領域3	領域4	得点(10点幅)
10点幅					I / II
Bの重症度					合計 非該当
	A	B	C	D	
領域1～3					
領域4					

1 点幅採点

方法

- それぞれの 10 点幅の採点方法に移動する。
- 領域 1～3 の点数の減点、領域 4 の減点ルールに則り、減点数を割り出す。
- A～C の数のうち「-1=」という表記の場所は指定された数「1」を引いた数で計算する。
- 80～71 の幅の時のみ B の重症度を評価し、加点を計算する。減点分に重症度の加点を加算する。他の 10 点幅では考慮しない。
- 各 10 点幅の最も高い数(例：70 点、60 点)から減点する。(80～71 点幅は例外)

● 80～71 点の場合

	基準点		
領域 1～3	B が 1 つの場合：80 点(≥79) B が 2 つの場合：77 点(≥75) B が 3 つの場合：74 点(≥71)		
B の重症度	+ = 0 0 = -1 - = -2		基準点 _____ - 重症度減点 _____ = _____

- それぞれの重症度を足し引きして、基準点に加算する。
- 基準点の上限を超える時には、上限の点数にする。

例：B- が 3 つの場合基準点は 74 で減点幅は 6 点だが、下限が 71 なので得点は 71 とする。

● 70～61 点の場合 (Ⅰの場合)

	B(-1 点)	C(-3 点)		B(-3 点)	減点合計
領域 1～3		-1=	領域 4		
70 点 - 減点 _____ = _____					

● 70～61 点の場合 (Ⅱの場合)

	B(-1 点)	C(-3 点)	減点合計
領域 1～3			
70 点 - 減点 _____ = _____			

領域 4 の B は判定で使用済み

● 60～51点の場合（Ⅰの場合）

領域1～3	B(-1点)	C(-2.5点)	領域4	B(-1点)	C(-4点)	減点合計
60点－減点 _____ = _____				領域1～3のDは判定で使用済		

● 60～51点の場合（Ⅱの場合）

領域1～3	B(-1点)	C(-2.5点)	D(-4点)	減点合計
60点－減点 _____ = _____				領域4のBは判定で使用済

● 50～41点の場合（Ⅰの場合）

領域1～3	B(-1点)	C(-2点)	D(-4点)	領域4	B(-3点)	C(-5点)
			-2=			
減点合計	50点－減点 _____ = _____				領域1～3のD2つは判定で使用	

● 50～41点の場合（Ⅱの場合）

領域1～3	B(-1点)	C(-2点)	領域4	B(-3点)	C(-5点)
減点合計	50点－減点 _____ = _____				領域1～3のEは判定で使用済

● 40～31点の場合（Ⅰの場合）

領域1～3	B(-1点)	C(-2点)	D(-4点)	領域4	B(-3点)	C(-5点)
			-1=			
減点合計	40点－減点 _____ = _____				領域1～3のDとEは判定で使用済	

● 40～31点の場合（Ⅱの場合）

領域1～3	B(-1点)	C(-2点)	D(-2.5点)	E(-4点)
領域4のDは判定で使用済				

減点合計	
	40点－減点 _____ = _____

● 30～21点の場合（Ⅰの場合）

	B(-1点)	C(-2点)	D(-4点)		B(-1点)	C(-3点)	D(-5点)	E(-4点)
領域1～3				領域4				
減点合計	30点－減点 _____ = _____				領域1～3のE2つは判定で使用済			

● 30～21点の場合（Ⅱの場合）

	B(-0.5点)	C(-1点)	D(-2点)	E(-3.5点)	
領域1～3					
減点合計	30点－減点 _____ = _____				領域4のEは判定で使用済

● 20～11点の場合（Ⅰの場合）

	B(-1点)	C(-3点)	D(-5点)	E(-9点)	
領域4					
減点合計	20点－減点 _____ = _____				領域1～3のE3つは判定で使用済

● 20～11点の場合（Ⅱの場合）

	B(0点)	C(-1点)	D(-2点)	E(-3点)	
領域1～3					
減点合計	20点－減点 _____ = _____				領域4のFは判定で使用済

資料

社会的職業的機能評定尺度

(Social and Occupational Functioning Assessment Scale: SOFAS)

100～91	広範囲の活動にわたる最高の機能
90～81	すべての領域でのよい機能で、職業的にも社交的にも効率的
80～71	社会的、職業的、または学校の機能にごくわずかな障害以上のものがない（例：たまに対人関係上の葛藤がある、一時的に学業で後れをとる）。
70～61	社会的、職業的、または学校の機能にいくらかの困難があるが、全般的には機能は良好であって、有意義な対人関係もかなりある。
60～51	社会的、職業的、または学校の機能における中等度の困難（例：友達が少ししかいない、仲間や仕事の同僚との葛藤）
50～41	社会的、職業的、または学校の機能における深刻な障害(例:友達がいない、仕事が続かない)
40～31	仕事や学校、家族関係などのいくつかの面での重大な欠陥（例：抑うつ的な男が友人を避け、家族を無視し、仕事ができない。子供がしばしば年下の子供をなぐり、家庭では反抗的であり、学校では勉強ができない）
30～21	ほとんどすべての面で機能することができない（例：1日中、床にしている。仕事も家庭も友達もない）。
20～11	時には最低限の身の清潔維持ができない。独立して機能することができない。
10～1	最低限の身の清潔維持が持続的に不可能。自己または他者を傷つけることなく、または外からかなりの支持（例：養護と監督）なしには、機能することができない。
0	情報不十分